

スクール・ポリシーの策定から 運用までのロードマップ

ダウンロード可

START

これから策定を開始する学校はSTEP1から、既に策定中の学校は進行状況に応じて途中のSTEPからご覧ください。

さまざまな関係者の思いが込められたスクール・ポリシーを策定し、機能させていくプロセスを、田村知子先生監修の下、編集部でロードマップにまとめてみました。取り組み方の一例としてご覧いただき、各校の状況に合わせてアレンジや部分利用をするなどご活用ください。

監修／大阪教育大学 大学院連合教職実践研究科 田村知子教授

STEP 1

1

準備

誰が・いつ・どのように取り組むかを計画する。既存の組織や会議の活用も含め綿密に計画を立て、取り組む教職員の負担軽減につなげる。メンバー選定や過程の透明性も大切に。

策定方法の方針決め

管理職などが策定方法の大枠を検討。

中核メンバー・組織の特定

既存組織に役割をもたせるか、新たなプロジェクトチームを結成。

工程表を作成

学校内外の調整を含め、どういった工程で策定し運用するのか計画。



※図中では、スクール・ポリシーをSP、グラデュエーション・ポリシーをGP、カリキュラム・ポリシーをCP、アドミッション・ポリシーをAPと表記。

STEP 2

2

情報収集

策定の方向決めや原案作成の重要な材料として、教職員や生徒をはじめ幅広い関係者の思いや意見を、なるべく早い段階で吸い上げる。その方法や手順は各校の状況に合わせる。

原案の作成

集めた情報を基に、担当組織が原案を作成。

ヒントカード D

キーワードの抽出

収集した情報からキーワードを抽出。KJ法などを活用するの一手。

既存の情報の収集

校訓、学校の歩み、卒業生の声などを棚卸し。

教職員の声の収集

全教職員によるプレストやワークショップを実施。

ヒントカード A

生徒の声の収集

ホームルーム活動や生徒会活動、アンケートなどで生徒の声を聞く。

ヒントカード B

↑
35ページのヒントを参照

全員で!

全教職員で原案について協議

原案に至った経緯を共有のうえ、意見交換。

必要に応じて、生徒と原案について協議

必要に応じて、学校外の関係者と原案について協議

原案ができていない学校はココから

STEP 3

3

検討

多方面から収集した情報や声を基に原案を作成し、教職員全体で精査する。原案作成前に生徒や学校外の意見を収集していない場合には、この段階で意見をもらう機会を設定する。

学校外の関係者の声の収集

学校運営協議会、保護者、協働先の企業・団体、就職先の声を収集。

ヒントカード C

全員で!



文言の調整

挙げた意見を基に、担当組織が行う。

STEP

4

決定

最終決定し、発表する。実際に運営してみて気づくこともあるため、可能なら初年度は「仮置き」として運営し、1年後に最終決定するという方法もある。

校長が最終決定

これまでの経緯を踏まえて決定する。

決定内容の発表

校内掲示、HPや学校だよりへの掲載なども行う。

ヒントカード A

“全教職員で策定する”との位置づけで

SPは全教職員で策定するものと位置づけ、早い段階でそれぞれの思いや考えを語り合う場をもつ。スクール・ミッションの共有と併せて行うのも手。また、この時間以外にも、常に誰でも意見を挙げることを可能にしておきたい。

ヒントカード B

生徒自身の願いも盛り込む

「教職員が与えるもの」にならないよう、学校の主役である生徒の「こんな学校にしたい」「こんな授業がいい」などの願いも盛り込む。生徒の「自分たちの声が届いた」という経験は、学校への信頼感や主権者意識の向上につながる。

ヒントカード C

学校外とも対話し協働をスムーズに

社会に開かれた学校づくりを推進するうえで、学校外の関係者とのSPの共有は重要。策定段階からの対話により、以後の協働が一層スムーズに。学校運営協議会などの既存の会議に乗せるなど、参加者の負担にも配慮したい。

ヒントカード D

GPから？ CPから？ やりやすい策定順で

各ポリシーの策定順は、建学の精神や校訓、スクール・ミッションなどを基にGPから始めるのほか、これまでの教育活動や教職員の実践を基にCPから始める方法も考えられる。学校の状況に合わせてやりやすい手順で行う。

ヒントカード E

行事計画や指導案上に関連SPを記載

総合的な探究の時間や学校行事をSPに即した実践にするには、予め計画表や学習指導案の書式に、この取組で意識したいSPの記入欄を設置しておく効果的。日々の授業では、CPを意識してもうひと工夫できないか検討する。

ヒントカード F

改善のために方向目標として評価

最低限ここまでという到達目標ではなく、目指す方向性を示す方向目標として、SPに対する学校の取組を評価し、改善につなげる。運用してみてSPの微調整の必要を感じることもあるので、日々気づきをメモしておき、年度末の振り返りで役立てる。

GOAL

スクール・ポリシーは常に“見直し続ける”もの。まずは「運用」と「振り返り」の年間サイクルが回る体制づくりを目標に。



策定済みの学校はココから

STEP

5

運用

日々の教育活動をSPを意識しながら行うことで、SPを教育活動に浸透させていく。2年目以降はSTEP5とSTEP6を1年間のサイクルで回す。

分掌の目標設定や計画に活かす

各分掌でSPのどの部分をどう教育に盛り込むのかを検討。



校長が常に発信する

校長講話に取り入れるなどして、生徒や学校外にも浸透させる。

教育活動に活かす

探究活動、学校行事、授業…さまざまな場面で。

ヒントカード E



生徒募集でSP明示

学校パンフレット、学校説明会などで伝える。



Repeat

年度始めにSPを見つめ直す

転入教職員や新入生を含め、学校全体でSPを再確認する。

各分掌の振り返りを集約

次年度の学校経営案、学年経営案、学級経営案などに活かす。



年度末に各分掌で振り返り

学校評価の流れに乗せるとスムーズ。

ヒントカード F

STEP

6

振り返り

年1回、SPに照らして学校の取組を振り返る。SPは3~5年程度でマイナーチェンジ、学習指導要領改訂時には大幅な見直しも検討。修正なしでも、年度初めには見つめ直す機会を設ける。

